

さいたま市教組情宣

さいたま市
教職員組合
(埼教組)

TEL 641-6763
FAX 648-3567
e-mail
saisikyouse@mx2.
et.tiki.ne.jp

2003. 4. 10(木)
No. 1

◆執行委員長あいさつ◆

今こそ、みんなで力を合わせるとし

二〇〇三年四月 さいたま市教職員組合執行委員長 前島 英男

四月一日より執行委員長になりまし三橋小学校の前島英男です。どうぞよろしくお願ひします。

皆さんは新しい年度を迎え、大きな希望とちよつぱりの不安を感じながらスタートを迎えたのではないのでしょうか。私も十三年ぶりに卒業生を出しましたが、その余韻に浸る間もなく二十一年ぶりの一年生担任。びっぴかひかの一年生に会える期待と、二回り前後年齢が違ふ保護者やその子ども達と、はたしてうまくやっついていけるだろうかという不安もあります。

さて、四日に市教組主催の学級びらき学習会がありました。講師の坂本光男さんの話を聞きながら、少し前に別れた卒業生の顔が浮かんできました。

「もう少しじっくり話を聞いてやれば良かった」「あの子のこういうところをもっと認めてあげたかった」など、反省点が出てきました。

しかし、久しぶりに聞いた坂本さんの話や、参加した若い人の感想を聞いて「よし、もう一度新たな気持ちで頑張ってみよう」という元気が湧いてきました。

今、一人の教師として考えなければならぬことは山ほどあります。目の前の苦悩する子ども達のこと。教職員自身にゆとりがなくなってきたりすること。不況による失業などが保護者にも及んできていること。そして、私達の給与も引き下げられていること。そして、イラク戦争が起きている最中に、日本を戦時体制にしようとする「有事法制」(「戦争協力法」と

愛国心などを盛り込み、それに従う教育を推進しようとする「教育基本法の改悪」が着々と進行していること、など。どれも、一人ではどうしようもないことです。今こそ、みんなで力を合わせるときではないでしょうか。私達の要求を実現するのは容易ではありません。しかし、貴重な前進も生み出してきています。その一つが、私達の何年にもわたる三十人学級を求め、署名の取り組みが、今各地で次々に実現し本流になってきていることです。

苦しいとき、悩んだとき、そんな時愚痴が言えて元気が取り戻せる、そんな組合を目指します。皆さんも組合に加入してともにがんばりましょう。



2003年度さいたま市教組執行委員一覧

- | | |
|------------|-----------------|
| 【執行委員長】 | 前島 英男 (大宮・三橋小) |
| 【執行副委員長】 | 松岡 正末 (浦和・田島小) |
| | 丸橋 明夫 (与野・与野東中) |
| | 瀬田 裕司 (大宮・大宮西中) |
| 【書記長】 | 山本 仁 (浦和・岸町小) |
| 【書記次長】 | 栗城 利光 (大宮・大谷中) |
| 【会計委員】 | 福田 美子 (大宮・上小小) |
| 【一般執行委員】 | 榎谷 耕治 (浦和・南浦和中) |
| | 杉田 誠 (浦和・大谷口中) |
| | 本多 伸年 (与野・下落合小) |
| | 稲葉 達也 (大宮・別所小) |
| | 石井 孝司 (大宮・桜木小) |
| | 浦本 和隆 (大宮・泰平小) |
| 【地区担当執行委員】 | |
| | 山本 悠子 (大宮・馬宮東小) |
| | 高橋 博 (大宮・海老沼小) |
| | 荒井 信次 (大宮・八幡中) |
| | 川崎 宏 (浦和・本太中) |
| | 高田 肇 (浦和・東浦和中) |
| | 山本 英二 (与野・八王子中) |
| | 猪野 新一 (浦和・新開小) |
| | 山田 久 (浦和・白幡中) |
| | 芳賀 和夫 (与野・与野南中) |



◆新年度スタート!

イラク戦争反対! 健保負担2割に! 住みやすい政令市に!

無法性、非人道性
あらわにした侵略戦争
即時中止、
米英軍は撤退を

アメリカなどのイラク攻撃はいよいよ激しくなっています。国連の決議もないうえに、査察による平和解決がレートルにのりはじめた矢先に、その道を武力で断ちきるような無法な戦争はありませぬ。

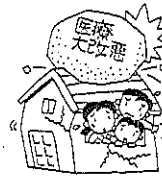
小泉内閣と与党の自民・公明は、アメリカの無法で野蛮な、戦争を支持しています。

「五〇万人が死傷、三〇〇万人の難民・避難民」と国連機関は予想しています。あらゆる手だてをつくし、一刻も早く戦争をやめさせようではありませんか。

自公政治で『痛み』の春

国民に耐えがたい『痛み』を強いる小泉内閣と自民・公明政治。そのもとで、この四月からは、サラリーマン本人の医療費三割負担をはじめ、年金・介護・教育など、くらしの全体にわたる負担増や給付減が待ち構えています。

国民の命とくらしを痛めつける政治を許すかどうかは、いっせいで地方選挙でも鋭く問われていきます。



大きくなった財政と権限を大規模開発ではなく、福祉やくらしに!

旧三市の合併を前にして、相川市長はさかんに「合併で格段の福祉の向上を図る」と大宣伝しました。しかし、たった二年でその偽りが証明されました。国保税の大幅値上げに続き、介護保険料の値上げ。その一方で大型開発を大規模に拡大していきます。

教育面でも、三十人学級実現の6万余の声を無視し、8校ものマンモス校もそのまま。大きくなった財政と権限を福祉や教育にくらしに!